

私立学校特別研修会

外国語（英語）教育改革特別部会

【北日本エリア】

実施報告

主催 一般財団法人私学研修福祉会 協力 一般財団法人日本私学教育研究所
日本私立中学高等学校連合会 後援

小学校・中学校・高等学校等を通じた英語教育改革を進める文部科学省では、平成26年度より英語教員の英語力・指導力強化を図る観点から、英語指導力向上事業「英語教育推進リーダー中央研修」を外部専門機関に委託し実施しています。同研修は、全国の国・公・私立学校の英語教員を対象としているものの、公立学校を中心とした研修の仕組みになっていることから、私学関係者の要望に応じて、文部科学省は平成27年度より私立学校教員が参加しやすいよう受入体制を整備し、私立学校教員も参加できるようになりました。

しかし同時に、次期学習指導要領や大学入学者選抜改革を含めて国が進める英語教育改革に係る最新の情報が、私立学校には十分に伝わっていない実情もあり、私立学校教員は公立学校教員に比べ情報量が少ない故に塚外に置かれた感はありません。

ついては、私立学校においても、外国語(英語)教員の外国語(英語)力・指導力強化を図るためには、教員が21世紀型教育に相応しい最新の教授法と情報を早急に取り入れる必要があることから、平成27年度より専門家の指導による特別研修会「外国語(英語)教育改革特別部会」を、全国5つのエリアで実施いたします。

当部会【北日本エリア】では、初日はSELHi指定校、IB調査研究指定校を経て、2014年度からSGH指定校として調査研究に取り組む外国語(英語)教育改革先進校「札幌聖心女子学院中学校・高等学校」を会場に、外国語(英語)の授業視察、実践発表、視察校の教員を交えて意見交換を行いました。翌日は市内の会場で、大学の専門家による講演とワークショップを通して外国語(英語)教育・大学入試改革の最新動向を知り、新たな外国語(英語)指導法を体験し、情報交換会で交流を深めてネットワークづくりを進めました。

- ◆ 会 期 ◆ 平成27年11月13日(金)～14日(土)
- ◆ 会 場 ◆ 札幌聖心女子学院中学校・高等学校(13日)
札幌市中央区宮の森2条16丁目10-1
京王プラザホテル札幌 B1階 チェリールーム ほか(14日)
札幌市中央区北5条西7丁目2-1
- ◆ 参加者数 ◆ 23名(募集40名)
- ◆ 参加対象 ◆ 私立中学高等学校の英語科教諭(ワークショップは英語で行われます)
- ◆ プログラム ◆
 - ① 研究授業 札幌聖心女子学院中学校・高等学校(中学校と高等学校の英語の授業を視察します)
 - ② 実践発表
テーマ1「本校の英語教育の取り組みについて」
発表者 Sr.田口 保子 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 チャプレン 宗教教育・国際教育担当参与
テーマ2「本校のルーブリックの取り組みについて」
発表者 堀内 成子 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 教諭
 - ③ 質疑応答・意見交換 ⑤ 情報交換会 全体及びグループによる意見・情報交換で課題を探索します
 - ④ 講演 演題「大学入試改革と英語教育の行方」
最新の大学入試・英語教育改革の動向と展望、対応について考察します
講師 根岸 雅史 東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授
 - ⑥ ワークショップ
「新しい英語教育にどう対応するか～CLILの考え方と4技能の評価～」
パフォーマンス評価について体験しながら学びます
講師 藤田 保 上智大学言語教育研究センター 教授・副センター長

◆ 日程概要 ◆

時刻	08 45	09 15	10 30	11 30	12 00	12 30	13 45	14 10	14	15 50	16 00	16 45	17 00
11月13日(金) [札幌聖心女子学院中学校・高等学校]					受付	開会式	① 研究授業 5時限 6時限			② 実践発表		③ 質疑応答 意見交換	
11月14日(土) [京王プラザホテル札幌]		④ 講演		⑤ 情報交換会 ～昼食		⑥ ワークショップ				閉会式			

学校紹介 ◆

札幌聖心女子学院中学校・高等学校

理事長 宇野 三恵子 校長 阿部 益太郎

札幌聖心女子学院は、カトリック女子修道会である聖心会を設立母体とする併設型中高一貫教育校で、しっかりした知性、堅実な実行力、謙虚な心を育て、これが聖書の人間観、いのちの価値観に基づく隣人愛に開花することを教育の目的として、1963年に創立されました。内省力、思考力、判断力、自己成長力、他者のための行動力を育てる教育が、少人数制の、のびのびとした学校生活の中で行われています。

英語教育も、開発教育、探究型学習、ティバート、世界5大陸に広がる姉妹校との連携に基づく4つの大陸での20を超える海外交流プログラムやフィールドワーク、地域の小学校での出前授業などを生かして、総合的、かつ実践的に行われています。

文部科学省から研究指定を3回受けています。1) 2006年～2008年: SELHi では、英語の運用力を高める理論と実践を進める教育を実現し、2) 2012年～2014年: 国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究では、21世紀の世界の問題を協力して解決する若い世代の教育について研究し、3) 2014年～2018年: スーパーグローバルハイスクールでは、自然との共生、他者との共生のため、共感のうちに対話し、新しい地帯を拓く若い世代の教育を目指して、学校共同体として研究に取り組んでいます。

◆ 講師プロフィール ◆

根岸 雅史 (ねぎし まさし) 東京外国語大学大学院総合国際学研究院 教授

東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授。専門は英語教育学・言語テスト論。これまでにGTEC for STUDENTS やケンブリッジ英検などさまざまなテスト開発に関わる。近年はCEFRや学習者言語の分析にも研究領域を広げている。文部科学省の「外国語能力の向上に関する検討会」委員、「外国語教育における「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標設定に関する検討会議」委員、「英語力評価及び入学者選抜における英語の資格・検定試験の活用促進に関する作業部会」委員。学習指導要領実施状況調査および様々な英語力調査に長年関わる。主な著書に、中学校英語検定教科書『NEW CROWN ENGLISH SERIES』(三省堂)、『コミュニケーション・テストへの挑戦』(三省堂)、『無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る』(共著)(大修館書店)。『CEFR-J ガイドブック』(分担執筆)(大修館書店)他。

藤田 保 (ふじた たもつ) 上智大学言語教育研究センター 教授・副センター長

上智大学外国語学部比較文化学科(現、国際教養学部)卒業。同大学院外国語学研究科言語学専攻博士前期課程修了。専門は応用言語学(バイリンガリズム)と外国語教育。立教大学異文化コミュニケーション学部教授等を経て、現在、上智大学言語教育研究センター教授、副センター長。特定非営利活動法人小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)理事。公益財団法人日本英語検定協会理事。主な著書に『コミュニケーションな英語教育を考える』、『英語教師のためのワークブック』(ともにアルク)、『21年度から取り組む小学校英語』(教育開発研究所)などがある。

◆ 講師・発表者・指導員(順不同) ◆

根岸 雅史	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授
藤田 保	上智大学言語教育研究センター教授・副センター長
Sr. 田口 保子	札幌聖心女子学院中学校・高等学校チャプレン 宗教教育・国際教育担当参与
堀内 成子	札幌聖心女子学院中学校・高等学校教諭
中川 武夫	蒲田女子高等学校顧問

◆ 特別委員・指導員(順不同) ◆

平方 邦行	工学院大学附属中学校・高等学校校長
浜野 能男	普連土学園中学校・高等学校校長
堀内 成子	札幌聖心女子学院中学校・高等学校教諭
後藤 健一	聖ウルスラ学院英智中学校・高等学校教諭
反田 任	同志社中学校・高等学校教諭
川本 芳久	一般財団法人日本私学教育研究所事務局長代行
山崎 吉朗	一般財団法人日本私学教育研究所主任研究員

◆ 日 程 表 ◆

11月13日(金)

〔会場 札幌聖心女子学院中学校・高等学校〕

12:00																	
12:30	受 付 〔事務入口 本館1階〕																
12:45	<p>◇ 開会式 〔3階 学習ホール〕</p> <p>1. 開式 司会 川本芳久 (一財)日本私学教育研究所 事務局長代行</p> <p>2. 開会挨拶 (一財)日本私学教育研究所 所長 中川 武夫</p> <p>3. 研修会方針説明 (一財)日本私学教育研究所 外国語(英語)教育改革特別委員長 平方 邦行</p> <p>4. 視察校代表挨拶 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 校長 阿部 益太郎</p> <p>5. 研究授業等説明 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 教諭 堀内 成子</p> <p>6. 閉式</p>																
13:10	<p>◇ 研究授業 中学G(グローバル)クラス、IA=インタラクティブイングリッシュ</p> <p>中学校・高等学校の英語の授業を視察します。授業は日本人教員とネイティブ教員が担当します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;">5 時限 13:10-13:55</td> <td>①中学1年Gクラス 英語コンプリハンシブ 〔市川 暁子〕</td> <td style="text-align: center;">2階中1G教室</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②中学3年Gクラス IA 〔ベビン・マクドネル〕</td> <td style="text-align: center;">1階中3G教室</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: top;">6 時限 14:05-14:50</td> <td>③高校2年英語表現(発展) 〔セイラ・リッチモンド〕</td> <td style="text-align: center;">2階No.20教室</td> </tr> <tr> <td></td> <td>④高校2年英語表現(標準) 〔キャサリン・リギンズ〕</td> <td style="text-align: center;">2階高2教室</td> </tr> <tr> <td></td> <td>⑤高校3年コミュニケーション英語(発展) 〔相馬 晴美〕</td> <td style="text-align: center;">2階高3教室</td> </tr> </table>		5 時限 13:10-13:55	①中学1年Gクラス 英語コンプリハンシブ 〔市川 暁子〕	2階中1G教室		②中学3年Gクラス IA 〔ベビン・マクドネル〕	1階中3G教室	6 時限 14:05-14:50	③高校2年英語表現(発展) 〔セイラ・リッチモンド〕	2階No.20教室		④高校2年英語表現(標準) 〔キャサリン・リギンズ〕	2階高2教室		⑤高校3年コミュニケーション英語(発展) 〔相馬 晴美〕	2階高3教室
5 時限 13:10-13:55	①中学1年Gクラス 英語コンプリハンシブ 〔市川 暁子〕	2階中1G教室															
	②中学3年Gクラス IA 〔ベビン・マクドネル〕	1階中3G教室															
6 時限 14:05-14:50	③高校2年英語表現(発展) 〔セイラ・リッチモンド〕	2階No.20教室															
	④高校2年英語表現(標準) 〔キャサリン・リギンズ〕	2階高2教室															
	⑤高校3年コミュニケーション英語(発展) 〔相馬 晴美〕	2階高3教室															
15:00	<p>◇ 実践発表 〔3階 学習ホール〕</p> <p style="text-align: right;">司会及び発表者紹介 後藤健一 外国語(英語)教育改革特別委員</p> <p>SELHi・IB 調査研究を経てSGH 指定校として、対話と共生を目指す先進的な外国語(英語)教育への取り組み・実践について紹介します</p> <p>テーマ1 「本校の英語教育の取り組みについて」 発表者 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 チャプレン 宗教教育・国際教育担当参与 Sr. 田口 保子</p> <p>テーマ2 「本校のループリックの取り組みについて」 発表者 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 教諭 堀内 成子</p>																
16:10	<p>◇ 質疑応答・意見交換 〔3階 学習ホール〕</p> <p style="text-align: right;">司会 山崎吉朗 (一財)日本私学教育研究所 主任研究員</p> <p>研究授業・実践発表を受けて質疑応答の後、全体で意見交換を行います</p> <p>指導助言 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 チャプレン 宗教教育・国際教育担当参与 Sr. 田口 保子 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 教諭 堀内 成子 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 教諭 市川 暁子 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 教諭 相馬 晴美 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 教諭 セイラ・リッチモンド 札幌聖心女子学院中学校・高等学校 教諭 ベビン・マクドネル</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>16:10-16:30 質疑応答(研究授業・実践発表)</p> <p>16:30-17:00 意見交換</p> </div>																
17:00																	

11月14日(土) [会場 京王プラザホテル札幌 B1階 チェリールーム、情報交換会・昼食 2階 ローズルーム]

08:45	◇ 講演 [B1階 チェリールーム] 司会及び講師紹介 浜野能男 外国語(英語)教育改革特別委員 演題 「大学入試改革と英語教育の行方」 講師 東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 根岸 雅史
10:15	◇ 情報交換会～昼食 [2階 ローズルーム] ファシリテーター Aグループ:堀内成子、浜野能男 外国語(英語)教育改革特別委員 Bグループ:後藤健一、反田 任 外国語(英語)教育改革特別委員 参加者による情報交換の場を設け、昼食をとりながら交流を深めます。ネットワークづくりに。
12:30	◇ ワークショップ (主に英語で(説明等は日本語を交えて)行われます) [B1階 チェリールーム] 司会及び講師紹介 反田 任 外国語(英語)教育改革特別委員 「新しい英語教育にどう対応するか ～CLIL の考え方と4技能の評価～」 講師 上智大学 言語教育研究センター教授・副センター長 藤田 保
15:45	◇ 閉会式 [B1階 チェリールーム] 司会 川本芳久 事務局長代行 1. 開式 2. 総括 (一財)日本私学教育研究所 主任研究員 山崎吉朗 3. 閉式
16:00	解 散

私立学校特別研修会

外国語（英語）教育改革特別部会【北日本エリア】

平成 27 年度の新規・重要事業の一つとして新たに設置された外国語(英語)教育改革特別部会(以下、「特別部会」)は、国が進める英語教育改革、大学入試制度改革の動きに対応していくため、英語教員の英語(外国語)力・指導力の強化、及び 21 世紀型の英語教育にふさわしい最新の教授法を積極的に取り入れることを目的とした、専門家の指導による実践的な教授法に係る研修会である。また、文部科学省による「英語教育推進リーダー中央研修」の研修実習の受け皿としての役割を併せ持つ。

本年度は全国 5 つのエリアで開催する。会期は 2 日を基本とし、英語教育において先進的な取り組みを行う学校の英語授業視察並びに専門家による講演・ワークショップ等を研修会の柱として実施する。

当特別部会【北日本エリア】は、11月13日(金)・14日(土)に北海道・札幌聖心女子学院中学校・高等学校及び京王プラザホテル札幌を会場に募集人数 40 名に対し参加者 23 名で実施した。少ない人数ではあったが、密度の高い研修会となった。初日は開会式の後、研究授業視察、二つの実践発表、授業と実践発表に対する質疑応答・意見交換を行い、二日目は講演、情報交換会、ワークショップを行った。

《開会式》

札幌聖心女子学院中学校・高等学校での開会式では、まず中川武夫・当研究所所長(蒲田女子高等学校顧問)の開会挨拶、阿部益太郎・札幌聖心女子学院中学校・高等学校校長の視察校代表挨拶、堀内成子・同校教諭の研究授業等の説明が行われた。

中川所長は「現在行われている教育改革の中で、特に英語の改革は先行して行われている。研究所としては現職の先生をどうするかということの問題と考えており、多くの先生方に研修会に参加して頂き、4 技能をしっかりと身につけて、これからの英語教育を考えていって頂きたい。今回の教育改革の中心には教員の意識改革がある。改革には縦横 2 つの改革があり、縦の改革は異なる段階の学校間の連携を、横の改革は教科の枠を超えての連携を求められている。教科の枠組みを超えてお互いが協力するような環境、教員間のつながりを生み出すのは英語の先生ではないか、そういったことにも意識を向けて頂き、二日間頑張ってください。」と、述べ挨拶とした。



阿部益太郎氏はまず視察校に選ばれたことについて感謝を述べ、「本校は日本で 7 番目の聖心の姉妹校として 50 年前に設立され、キリスト教に基づく女子教育を行ってきた。2006 年から 3 年間スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール研究をした。2012 年から 2015 年 3 月まで国際バカロレアの趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究校として取り組んできた。2015 年度はスーパー・グローバル・ハイスクール 2 年目にあたり、「人との共生、自然との共生」をテーマに探求学習を中心に課題解決能力・英語活用能力を育て、世界で活躍する女性の育成を目指して取り組んでいる。世界にある 150 近い聖心姉妹校のネットワークがあり、20 を越える海外体験学習があり、1996 年から探求方学習を実践している。小学校への英語出前授業、英語ディベート全国大会、模擬国連会議日本大会へも生徒が積極的に応募している。」と視察校について紹介され、「今回の研修が、皆様と我が校の学びの機会となり、実り多い研修会になるように期待をしている。」と、挨拶した。



《研究授業》

研究授業は中学校 2 クラス、高等学校 3 クラスで行われた。中学校、高等学校の何れのクラスも英語のみで授業がなされており、教師だけでなく生徒も授業中は先生との遣り取り・発表等で英語のみで会話・発言をしていた。また、今回視察させて頂いた 5 つの授業の内、ネイティブの先生による授業が 3 クラスあり、いずれも日本人の先生は補助に回っていた。生徒が教師の問いに自発的に英語で答える姿に生徒が身に付けた英語能力の高さや、そのために行われている英語教育の充実が伺えた。さらに、高等学校の授業になると授業のレベルの高さと生徒の英語力は更に顕著になり、日常的な表現だけではなくディベートの授業の用に高度に社会的な問題についても英語で生徒自身の考えを発表し、即興的な遣り取りが見られた。これらの研究授業は参加者を大いに驚かせ、刺激となっていた。

《実践発表 1》



Sr. 田口保子氏(札幌聖心女子学院中学校・高等学校チャプレン 宗教教育・国際教育担当参与)より「時代の要請に応える英語教育を目指して～本校の英語教育の取り組み」をテーマに、札幌聖心女子学院中学校・高等学校の成り立ちや、同校で行われている英語教育の取り組みについて発表が行われた。

まず、「札幌聖心女子学院中学校・高等学校は時代に応える英語教育を目指してきた。これは、聖心女子学院の共通の教育目的であり、その理念は深くキリスト教に基づいている。時代の要請に応える教育とは、まだ学んでいない知識を使って、新しい

創造にいたるもので、Concept がしっかりしていれば新たな Content にも対応はでき、知識を新たな局面で応用できる力ができてくる。1805 年に聖心会の指導要領ができた際に、「まず母国語を大事に」とあり、本校でも『英語の前に日本語』『英語の前にまず敬語を』と教えている。語学を学ぶ目的は色々であっても、大切なのは愛徳に



基づく相互理解。」と札幌聖心女子学院全体についての紹介があった。英語の授業については「英語の授業は少人数で手を変え、品を変え、色々やっている。様々なテストがあり、先生は生徒をよく把握している。家で毎日聞けるように『Progress in English 21』(エディック社)を使っている。テスト問題も子供の生活に即したものを作るよう心掛けている。生徒の英文のコレクションや、個別指導など様々な活動を行っている。しつこく、働き者でないと英語教師は務まらない。」と説明した。

最後に、同校が文部科学省(以下、文科省)から受けた3つの認定について、「スーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールとして、『英語を探る力と使う力を育てる。』ことを目指して、英語の習得のための学習環境を重視している。国際バカロレア(IB)の趣旨を踏まえた教育の推進に関する調査研究にも加わった。本校とIBのミッションステートメントは共通点があり、IBの趣旨を踏まえた調査研究の実として、教師はファシリテーターであるべきことを学んだ。スーパー・グローバル・ハイスクールの認定の際には、相手に何を話すかだけでなく、発音も大切にしていること、また、競争ではなく共生の心を養うことが大切だと文科省にも申し上げた。さまざまな人との共生、自然との共生を学ぶことを学年ごとに目指している。現在はアクティブ・ラーニングの重要性をますます痛感している。」と話した。

《実践発表 2》

続いて、特別委員を務める堀内成子氏(札幌聖心女子学院中学校・高等学校教諭)が「本校のルーブリックの取り組み」と題した発表を行った。ルーブリックについての作成・使用についての説明があった後、参加者が実際にルーブリックの作成を行った。

「ルーブリックは評価のためのツールである。ルーブリックには観点(基準)と記述語が必要な要素であり、複数の観点評価を表している『分析的ルーブリック』と、教師が最後の評価に使う総括的に一つの基準で評価をしている『全体的ルーブリック』に使用方法によって大きく二つに分類できる。ルーブリックの観点は量・質的に差異をつけた記述語を記入することで評価のレベルを客観的に表す。レベルは多くても7~8で設定する。」と、基本的な説明をした後に、実際に使用した場面について発表した。「作成したルーブリックはスピーキングテスト、エッセイを書く時、中3卒業研究、高3卒業研究、各授業の評価に用いている。また、成績とは関係のない場面でも用いている。ルーブリックは指導に効果があるが、制作が大変である。しかし、制作することによって生徒にスキルを身につけさせるためにどのような指導していくのかということ、自分の授業をどのように組み立てて



いくのかを考えることにつながる。また、テストの一部に用いることも可能で、テストの採点について教師にとっても採点が行いやすく、生徒にとっても客観的に採点分かる、という良さもある。」と説明があった。

ワークショップでは実際にプレゼンテーションを作成する授業を想定し、参加者は隣同士や前後でグループになりルーブリックの作成を行った。作り方について堀内先生は「一番低いと思われるレベルと一番良いと思われるレベルを記入して、その途中にあたる段階を考えるとという順序でルーブリックを制作するとよい」「今回はレベル3が一番良い段階として制作しているが、今考える一番良いものをレベル3に設定しておき、後でそれ以上良いものをレベル4に付け加えるのも一つの方法」と参加者にヒントを出していた。

《質疑応答・意見交換》

実践発表後に研究授業を行った教員と実践発表者への質疑応答が行われた。研究授業を行ったうち4名の先生にご参加頂き、最初に先生方から当日行った研究授業内容について、日々の授業を行う上で気をつけている点について、生徒達についての説明があった。その後、参加者から質問を受付、ルーブリックをどのような時に使用するのか、生徒が発音を身に付けるためにどのように指導しているのか、どのような予習等を課しているのか、ディベートの授業はどのような期間でどのように準備したのか等の質問があった。



《講演》



二日目は京王プラザホテル札幌に会場を移し、まず根岸雅史氏(東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授)より「大学入試改革と英語教育の行方」と題して、現在までの英語教育改革、現在の入試英語改革と想定される影響、これからの英語教育が向かう方向についての講演が行われた。

まず、日本の大学入試の特徴及び問題点を概説。大学入試を前提として英語教育が行われてきたため、大学に入学できる受験英語を教えてもらったことは生徒から感謝されるが、実際に使える英語を教わるという面では不満があるという状況が生まれており、文科省は英語教育を受験英語から使える英語へと変えるべく、様々な改革を行ってきた。しかし、改革は一部の教員にしか効果がなく現状は失敗に終わっている。例えば、現在の英語教育で行われる「書く」「話す」活動は中学2年生をピークに高

校3年生に向けて大きく減少しており、改革の方向性とは一致していない。このように学習指導要領にある4技能のバランスのとれた学習が行われておらず、また、スピーキングテストの不在や大学入試結果による目標設定が行われているということにも学習指導要領との齟齬が現れている。さらに、大学入試がそのような学習内容にすることを補強しているような状態である。

入試を4技能型に作り替えることで、学習指導要領にある4技能を学ぶ学習との整合性がとれ、先生方の英語・受験勉強に対する現在の信念・慣習を変えられる可能性がある。入試が変わったが授業が変わらなかったとしないために、「新しい入試が測ろうとしている力の伝達」「新しい指導法研修」「英語力の向上」「英語の使用に関する研修」などの研修が必要となる。私立学校は先進的なものも自由にできるが、保守的なものも保持されやすく、教員の意思次第というところが大きいと締めくくった。



《情報交換会》

二つのグループに分かれ参加者同士による情報交換会を行った。英語で授業を行うことやネイティブ教員について、生徒のモチベーションについて、受験対応等、参加者の課題や問題と感じている点を出し合い、参加者同士で出された課題や問題点を共有し話し合った。



《ワークショップ》

藤田保氏によるワークショップが英語で行われた。まず、参加者を4つのグループに分け、参加者同士の挨拶、ウォームアップの後、英語教育改革についての講義とルーブリックについて、例を挙げながらの講義が行われた。次にグループ毎にルーブリックを作成し、どのような評価の観点と記述語を持つルーブリックかという発表を行った。最後にグループ毎に全員が1



分間の即興スピーチを行い、同時にスピーチを作成したルーブリックで各人が評価し、スピーチに対する評価をグループ内で共有した。スピーチのテーマは、即興であるため、スピーチを行う直前に与えられ、グループ毎に異なった。テーマは以下のとおり。

- 1) What did you find most difficult in making a Rubric?
- 2) What did you learn from this seminar?
- 3) What are you going to try in your class after this seminar?
- 4) What do you think is important to improve students' English ability?

参加者は様々な課題に対して、積極的にまた和気藹々と取り組んでいた。

《閉会式》

閉会式では、山崎吉朗主任研究員が「札幌聖心女子学院中学校・高等学校の授業は是非見て頂きたくて企画した」、「根岸先生や藤田先生から英語教育改革について聞いたことや、藤田先生の後半のワークショップで参加者が普段出来ない体験が出来た事が良かった」とプログラムの内容を振り返りながら話した。続けて、【東日本エリア】以降の研修会開催予定を説明し、「ご参加頂いた先生方はリーダーになったと思って頂いて、学校・地域に戻って私学全体の英語教育を高めていけるよう頑張ってください」と、総括した。



<都道府県別参加者数>

No.	都道府県名	参加者数	No.	都道府県名	参加者数	No.	都道府県名	参加者数
1	北海道	19	17	石川	—	33	岡山	—
2	青森	—	18	福井	—	34	広島	—
3	岩手	—	19	山梨	—	35	山口	—
4	宮城	—	20	長野	—	36	徳島	—
5	秋田	—	21	岐阜	—	37	香川	—
6	山形	—	22	静岡	—	38	愛媛	—
7	福島	1	23	愛知	—	39	高知	—
8	新潟	—	24	三重	1	40	福岡	—
9	茨城	—	25	滋賀	—	41	佐賀	—
10	栃木	—	26	京都	—	42	長崎	—
11	群馬	—	27	大阪	—	43	熊本	—
12	埼玉	—	28	兵庫	—	44	大分	—
13	千葉	—	29	奈良	—	45	宮崎	—
14	神奈川	—	30	和歌山	—	46	鹿児島	—
15	東京	2	31	鳥取	—	47	沖縄	—
16	富山	—	32	島根	—			
4		都道県				計		23

アンケート集計〈コメントの集約〉

回答率 52.1% (12/23 人)

当研修会への参加目的をお知らせ下さい。

参加動機としては、自己研鑽、自校の授業の参考および他校の様子、今後の教育改革等の動向など様々であった。

- 来年度から新コースがいくつか開設されることになり、その一つに英語教育に特化したものがあるため、何かアイデアを得られるのではないかと思い参加した。
- 私立高校の様子を知りたく、本校にも応用できることがあれば、吸収したいと思ったことと、CLIL のことに興味があり参加した。
- 日本人学生の英語能力向上に最も効果的と思われる方法の探求の一環として参加した。
- 「英語で英語を教える」授業の参考にするため。評価方法の参考にするため。
- 今後の授業の改善、転換を考えるため。
- 新テストの動向と各校の動向を知るため。
- 大学入試改革についてよく知るため。自分の teaching skill 向上のため。
- Active Learning を学ぶため。

当研修会の各プログラム・内容等について、参考になった点、感想、意見等をお書き下さい。

研究授業

多くの参加者が生徒の英語力に驚かれており、同校の英語教育に関心が寄せられた。

- Debate のクラスはどうすればあのような生徒に育つか不思議で仕方が無い。帰国子女でないのはわかつ

た。元から外国人の方だったのではないかとと思うほど素晴らしかった。

- 聖心女子の生徒のレベルに驚かされた。指導すれば、ここまで、できるのだと刺激になった。教師の力が重要だと感じた。
- 中学 3 年、高校 3 年を通して相当に英語を用いることに主眼を置いて、将来英語を使って世界を生き抜く力を与えようとする学校側の姿勢が、大変よくわかる授業であった。生徒の英語での反応は抜群に良い。鍛え方次第で、子供たちは大きく可能性を伸ばすことができると考えられる。
- ALL English の授業について、とても学んだ点が多かった。特に文法の説明まで英語で行うところが参考になった。ディベートの授業で生徒たちの積極的な姿勢が良かったと思う。
- どのクラスもそのレベルの高さに驚いた。しかし、その影に念入りな準備と先生方の熱心で細やかな指導があったことを感じた。
- 高 3 のコミュニケーション英語Ⅲの授業レベルの高さにびっくりした。生徒が堂々と話し、ずっと見ていたい授業であった。

実践発表 1【Sr. 田口 保子氏】

同校の建学の精神を教育全般に取り入れられていることに感銘を受けた感想も多く、参加者の今後の学校のあり方について参考になった。

- “SGH” や “グローバルクラス” など焦点を決めてお話を聞きたかった。きっとどの話題であっても時間が足りないくらい内容があるのではないかとそう思うとぜひ聞きたい。
- 今後の世界を生き抜く手段である英語を習得させ、かつ母国語も含めて言語能力を向上する。日本文化への貢献と世界での共生という理念に基づく数々の努力を続けることがよくわかった。
- 学校をあげての英語教育への積極的な取り組みについて、大変すばらしいと思った。また “英語” の前に “敬語” という、日本語教育の重要性も大変印象に残った。
- 人間教育をすべての基本においていて、英語の授業でもそれを行うということがわかった。学校として行いたい教育ができるように、教材やカリキュラムの選定をしていて、いかに学校としての vision が必要かを感じた。
- 聖心の建学の精神がブレずに基本にあり、改革されていく教育の中で、まさに聖心が何年もやってこられた方針と合致していて素晴らしいと思った。
- 非常に感銘を受けた。本校でも「共育」を目標としているので、「あたりまえの共生」にむけた活動を今後の参考にしたいと思った。

実践発表 2【堀内 成子氏】

ループリックについて大半の参加者が知識を持っておらず、発表を聞いて、各学校でも取り入れていきたい等、積極的な感想が多かった。

- ループリックについては名前を知っただけだったが、ここでどういったものか知ることができて良かった。実際に利用できそうだったので、ぜひ使いたいと思う。
- ループリックは初めて聞いた。わかりやすく作成の仕方を教えていただき参考になった。
- ループリックによる評価基準の設定は客観性のある評価ができ大変有益であることがわかった。今後、自らも特に Writing の評価で用いてみようと思う。有効な手段であると思った。
- ループリックという評価ツールがとても使いやすい印象だった。ぜひ参考にしたいと思う。
- ループリックを導入することによって、生徒にとっても教員にとっても目標が明確になり、採点基準についてもわかりやすくなると思った。自分の授業でも導入したい。

質疑応答・意見交換

少人数であったが、意見交換を通して、参加者の学校で、前向きに考えていこうという回答があった。

- 教育改革に伴って、今までのことと新しいことを全部やろうとしがちになるが、他教科との関連、学校でなければできないことを吟味するなどして対応はできると感じた。やはり、学校全体の vision が必要であると感じた。
- どのように自宅学習をすすめたか、どのように計画してあのディベートまでもっていったか具体的な方法を教えて頂き勉強になった。

講演【根岸 雅史氏】

現在進んでいる教育改革は、各学校にとって緊急を要する課題だが、学校間の温度差が大きい現状がある。本アンケートからは、現状とこれからの方向性を知ることができ、良かったというものが多く見られた。

- 今までの入試の変遷がわかり、今後の大学入試センターのことも理解できて良かった。
- 今後のこの国の方向性、英語教育の方向性が、日々の実践を更に進めることが必要と確認することができた。自身の鍛錬も含めて、今後一層努力していきたい。
- 英語に関わる部分は予備校のものしか聞いたことがなかったので、英語が主になることが大切だと感じた。
- 入試制度改革に関してはぜひ知っておきたい内容だったので、この期にいろいろ話が聞けて助かった。
- 入試が変わっていく中で、4技能、特に **speaking**、**writing** まで力をつけさせる指導の必要性を感じた。一方で、現状は進研模試の平均偏差値で現場では出来・不出来が論じられ、とても自分には迷いがある。
- 英語の今後の展開、自分が今後どのように指導していけば良いのか考えさせられる内容であった。

情報交換会

講演を受けての意見交換会であったため、今後の教育の行方や今後の学校のあり方を話し合う場となり、大変有益な時間となった。

- 非常に貴重な時間となった。特定のトピックについて限られていないこの場では、様々な意見を交換できた。
- 英語のスキルの生かし方などを知ることができ、本校の現状と比べることができた。
- 多様な学校の実情を知ることができ、参考になった。今後の高校英語の向かうべき方向を確認した。
- 他校の先生たちが受験指導と英語の授業のあり方のギャップをどのように埋めるために、いかに苦労しているかがわかった。
- 他校の先生と話し、共通の悩みや課題を持っていたり、解決に向けた方法を持っていたりと有意義な会だった。
- 実際の現場での悩み（生徒間の学力差、大学入試への対応など）は似ていることがわかった。その中で従来の大学入試への対応をベースにしながらも英検などを利用して4技能を伸ばす考え方もあるなど刺激になった。
- 多くの学校の先生方と悩みを共有できて励まされた。
- 他校の取り組み、先生方の悩みなど知ることができ、自分と同じ悩みを抱えていたりしたことに気付くことができた。

ワークショップ【藤田 保氏】

ワークショップではルーブリックや CLIL を学ぶだけに止まらず、即興スピーチをルーブリックで評価する活動では生徒の立場に立った体験ができたなど、有意義なプログラムであった。

- 後半は実際にルーブリックを使うことができて良かった。最初の作成の過程で質が悪いと評価も安定しないことがわかった。
- 生徒の立場に立って、発表してみて、その感じを久しぶりに味わえて、新鮮だった。
- ルーブリックを作り、改めて難しさを感じた。評価することの責任・・・実際にスピーチをすると評価をされている怖さを味わった。
- まさか自分がスピーチすることになるとは思わなかった。しかし、大変勉強になった。
- 即興スピーチがいかに難しいか生徒の立場になってわかった。自分自身も書くなら時間をかければ何とかなくても、すぐに話す力をもっとつけなければならぬと実感した。
- 英語漬けの時間が新鮮であった。
- CLILに興味があったので参考になった。ただ、このまま改革を進めた時の二極化を心配している。
- 実によく考えられていて、Active Learning の実態を実体験した。

本年度冬以降の本研修会への要望等をお書き下さい（例：研修会で取り上げてほしいテーマ、課題、実施してほしいプログラム、継続もしくは改善を望む事項、来年度以降の開催時期等）。併せて、当研究所の研修事業等に対するご意見がありましたらお書き下さい。

- 様々な学校の成功例がみたい。
- 英語力（特に **listening**、**speaking**）を向上させるために最善と思われる方式の試案を一つでも多く提案して頂けるとありがたい。将来の日本の明るい未来に向けて今後の発展に期待している。